

# 災害イメージはどう作られるか

1. 地域の災害経験
2. 被災地への応援  
課題⇒全体像が見えにくい
3. マスコミ報道  
⇒可哀想な被災者 vs 役に立たない行政

# 災害エスノグラフィ

■異文化を理解するための  
民俗学的手法

■数人で自由に話す



- 災害時の生々しさ、臭い、風を感じる
- 隠れやすい失敗、悪口、本音が出る

# 災害時難病患者支援計画を策定 するための指針（H20.3）（1）

- ・ 平常時から準備しておくべき  
難病患者支援体制

- ・ 災害時の難病患者支援体制

- ①自治体、②保健所、③患者・家族
- ④医療機関、⑤地域の機関（訪問介護ステーション、居宅介護支援事業所、自治会、医療機器取扱業者、消防署、電力ガス会社・・・）
- ⑥患者会・難病団体

# 災害時難病患者支援計画を策定 するための指針（H20.3）（2）

## 難病の特性を考慮した個別の支援体制

- ①在宅人工呼吸器療法、②在宅酸素療法、
- ③在宅人工透析療法、④特殊な治療薬剤  
（経管栄養剤、インスリン、副腎皮質ステロイド薬、抗けいれん薬、抗パーキンソン病薬）
- ⑤移動困難、ADLが低下した難病患者の支援体制

# 福祉施設の 重要な災害時対応業務

- ①発災直後 火災対応、利用者の安否確認、医療搬送、緊急点検・・・
- ②発災当日 災害対策本部、安否確認、福祉支援の継続、トイレ、要援護者・・・
- ③翌日～3日後 福祉支援の継続、職員健康管理、ボランティア、・・・
- ④4日後以降 福祉支援の継続、支援物資・・・

# 発災直後の行動（防災中心）

## 施設の利用者、職員を守る

- 火災対応、利用者の安否確認、医療搬送、・・・→人命にかかわり非常に重要
- 施設・被害状況確認（デジカメ撮影）  
→二次被害防止、使用可否の判断、保険請求、復旧作業
- 施設が危険な場合は、安全な場所に避難  
→時間との戦い。避難方法と避難場所？

# そのまま業務継続できるか？

## ■ 大災害対応に移行するか、平常業務かの判断を行う。

⇒ 大災害対応に移行した場合、利用者の生命維持、精神安定、生活支援を組織的に行う。

⇒ 保護者へ引き渡すのみではなく、安全な場所で福祉支援を継続することが目的。場合によっては、宿泊して支援の継続。

⇒ 自治会・町内会など地域や保護者との連携

# 利用者支援（事業継続中心）

- 基本的な支援
  - 食事、排泄、温度管理→通常通り実施したい
- 医療関連行為
  - 与薬、じょくそう処置、吸引・吸痰・・・
  - 生命、生活の維持に不可欠で最優先
- 衛生、清潔の保持→水を多く使わずに実施
- 備蓄可能な資源
  - 飲料水、洗浄用水、非常食、ポータブルトイレ、ウェットティッシュ・・・

# 住民や要援護者の受入れ

- ・ 過去の事例では、避難希望の要援護者を受け入れざるを得ない
- ・ 自治体から要援護者引受け依頼
- ・ 自治体から福祉避難所の依頼

←事前に、地域と話し合いや協定。  
福祉避難所指定や運営訓練

# 福祉施設のBCPの作り方

①防災計画の点検、見直し  
避難、安否確認、連絡…

②事業継続の観点からレベルアップ  
人の確保、備蓄見直し、福祉避難  
所…⇒基本文書と付属資料

③訓練、点検による周知、レベル  
アップ

# BCP作成のワークショップ

## ◎テキスト

- ・福祉施設の防災計画、  
自衛消防計画

## ◎BCP作成のポイントを議論

被災経験の話などを踏まえて、  
大事なポイントを検討し、整理  
する

# BCP作成の検討例①

## 避難場所、避難方法

まず、現在の防災計画を確認しましょう

①災害時には、どんなことが起きますか。

⇒火災、津波、浸水など、可能性はゼロではない。

②防災計画の場所や避難方法で大丈夫ですか。

⇒問題点を考え、話し合しましょう。

③では、どうしたら良いですか。(施設が壊れて長期で避難する場合はどうしますか)

⇒解決案を考え、話し合しましょう。

## BCP作成の検討例②

### 利用者(家族)、職員の安否確認、連絡方法

防災計画を確認しましょう

- ①災害時には、どんなことが起きますか。
- ②防災計画の方法で大丈夫ですか。
- ③では、どうしたら良いですか。

⇒解決案をポストイットに書いてください。

※連絡網が電話番号だけでは・・・

# BCP作成の検討例③

## 人の確保

防災計画を確認しましょう

- ①災害時には、どんなことが起きますか。
- ②防災計画の方法で大丈夫ですか。
- ③では、どうしたら良いですか。)

⇒**解決案をポストイットに書いてください。**

**※全員参集できる前提では・・・**

# BCP作成の検討例④

## 地域との連携、福祉避難所

防災計画を確認しましょう

- ①災害時には、どんなことが起きますか。
- ②防災計画の方法で大丈夫ですか。
- ③では、どうしたら良いですか。

⇒解決案をポストイットに書いてください。

※地域からの避難者をすべて受け入れては・・・

# 障がい者の事例

- 在宅の障がい児者を高齢者が世話をしている家庭も多かった。残念なことに、高齢者の判断が遅れ、ともに逃げ遅れた事例がいくつもあった。
- 自閉症の子どもがいることを近所の方が前から知っていたので、支援に駆け付け、一緒に避難して助かった
- 多くの被災地を回った経験からは、残念なことに障がい者にとって地域の助け合いは重要だが、必ずしもうまく行われていないと思う

中村雅彦「あと少しの支援があれば 東日本大震災障がい者の被災と避難の記録」、ジアース教育新社、2012年2月

# ご近所力のないモデル



家具固定・備蓄  
情報入手・避難



家具固定・備蓄  
情報入手・避難



家具固定・備蓄  
情報入手・避難

# ご近所力のあるモデル

ご近所力があれば、地域防災の  
相当部分をカバーできる！

家具固定・備蓄  
情報入手・避難



つながり・お互い様・安心感

# BCP作成の検討例⑤

## 重要業務継続の備蓄

防災計画を確認しましょう

- ①災害時には、どんなことが起きますか。
- ②防災計画の方法で大丈夫ですか。
- ③では、どうしたら良いですか。)

⇒**解決案をポストイットに書いてください。**

# 危機管理のポイント

- 危機時に最適な判断、行動ができる人間力

⇒ サリン事件時の聖路加病院

- 備蓄、連絡網、地域・行政連携など事前の備え

# 平時への応用！

■重要業務は3割の職員で可能なはず

⇒なぜ平時に職員は多忙なのか？

※入浴

※散歩、レクリエーション

※時間をかけた丁寧な対人サービス

専門職でなくとも良い仕事に時間とエネルギーをかける。それが評価される。

# 新しい公共の提案！

■重要業務は3割の職員で可能だった・・・

⇒専門職でなくともできる仕事は、地域のおばちゃんが1日2千円でボランティア

※ボランティア活動を将来の介護サービスの対価とする事例が活発化（稲城市など）

⇒コストを下げて同様のサービスを提供

or同じコストで多くの高齢者が特養を利用

⇒大きな公共を低コストで担う社会へ！

⇒BCPで政策転換の提案を！